

## 「主体的に学習する児童の育成」 ～ 活用する力をはぐくむ授業づくりを通して～

### I 研究の内容

#### 1 主題設定の理由

昨年度の研究では、「主体的に学習する児童の育成」を目指して、学習活動の様々な場面で思考力・判断力・表現力を引き出すための授業改善を進めた。子どもたちもこのような授業展開が自然に身に付いてきたことにより、自ら問題解決をしようとする意欲が感じられるようになってきた。

本年度は、さらに既習の知識を活用して新しい考え方を発見し、分かりやすく表現することを大切にす指導を心がけたい。また、効率的な表現方法や発表や話し合いの形態を工夫することなどを通して、児童ひとりひとりの学ぶ意欲を高める授業実践を全学年で取り組んでいきたい。さらに、自分の考えを説明したり、友だちの考えを認めたりする学び合い・話し合い活動を通して、児童の思考力や表現力を高める手立てを追究していきたい。

研究を推進するにあたり、児童の実態をより把握し不足している力や指導が必要な力を明らかにし、それに基づいての基礎的・基本的な知識・技能の習得に向けた指導の改善を行う。思考力・判断力・表現力の育成を目指し、話し合い活動の活性化を図る「言語活動の充実」「活用する力」をテーマに、共通理解のもとで取り組みを焦点化させていきたい。

さらに、甲州市「確かな学力」育成プロジェクトとも連携し、「NRT」「Q-U」調査を活用して学級集団づくりにも焦点を当てていきたい。

#### 2 研究の具体的な内容と方法

- (1) 算数科の授業において、基礎・基本の知識・技能を習得させ、活用力を育てるために、学習過程を工夫し改善する。(テープ図・線分図・数直線の指導の系統)
- (2) 算数科における「活用する力」についての理論研究を行い、共通理解のもとで具体的指導法を探る。
- (3) 児童の実態を把握、課題を明確にする。(NRT・Q-Uの実施と活用)
- (4) 一人一授業公開を実施し、楽しく分かるための授業の改善に生かす。

#### 3 研究実践

##### (1) 研究授業

- |       |               |               |    |        |
|-------|---------------|---------------|----|--------|
| ・第3学年 | 算数科「10より大きい数」 | 授業者           | 廣瀬 | 敦子教諭   |
|       | 指導・助言         | 山梨県教育委員会義務教育課 | 齊籾 | 巧指導主事  |
| ・第6学年 | 算数科「きまりを見つけて」 | 授業者           | 須藤 | 将行教諭   |
|       | 指導・助言         | 峡東教育事務所       | 宮澤 | 洋一指導主事 |

## (2) 授業公開 (一人一実践)

- ・第1学年 算数科「ずをつかっかんがえよう」 授業者 菊島 敬子教諭
- ・第2学年 算数科「九九をつくろう」 授業者 根津 千尋教諭
- ・第4学年 算数科「どのように変わるかな」 授業者 高添 勉 教諭
- ・第4学年 理科「物のあたたまり方」 授業者 筒井 好澄教頭
- ・第5学年 算数科「比べて考えよう」 授業者 大澤 正史校長
- ・第5学年 算数科「面積の求め方を考えよう」 授業者 塩澤 美希教諭
- ・全学年 保健「じょうぶな骨づくりで元気な100歳へ」保健集会

授業者 内田美砂記養護教諭

## (3) 学習会

- ・「小学校の特別支援教育」

講師 甲州市教育委員会スクールカウンセラー 長尾雅裕先生

## II 成果と課題

### 1 成果

- ・昨年度からの研究成果を継承して、研究を進めることができた。活用する力をはぐくむ授業づくりには、児童の実態把握から、日常生活に生かす発展性まで、幅広く様々な取り組みができた。
- ・算数科の学習において、各学年で獲得すべき基本的な内容を確実に身に付けさせ、それを表現する形で授業を進めた。
- ・主体的に学習する児童の育成を目指しているために授業の様々な場面で、思考力や判断力・表現力を引き出すための工夫や授業改善が進められた。子どもたちの活動からも、自ら問題解決をしようとする意欲が感じられた。
- ・管理職を含めた全教職員の一人一実践の授業公開は、1年生か6年生までの発達段階における言語活動の充実を図る手立てを共通理解することができた。指導者それぞれの個性や指導に対する熱い思いが感じられ、授業づくり(課題設定、展開、発問、児童の主体的な活動を促す指導・支援等)に大いに参考になった。
- ・研究授業を通して、課題提示、自己解決に向けての見通し、教師の発問、課題解決のための話し合い、学習のまとめ、学習環境、生活に根ざした教材等、指導の改善について多くのことを学ぶことができた。

### 2 課題

- ・今年度の研究の中で重要な要素となった「言葉、数、式、図を用いて考え、説明する活動」、中でも「テープ図、線分図、数直線等」を用いて問題解決に取り組んだ。話し合い・学び合い活動については、さらに有効な指導方法について研究を進めていきたい。
- ・課題提示や教材の工夫、生活への活用等についてさらに深めていきたい。

## III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業実践指導案
- 2 保健・図書集会資料

(研究主任 高添 勉)